

## 新たなにぎわいを生み出す MICE施設を建設します



令和3年11月の開業を目指しています

人口減少が進む中、国際会議や学会などの開催による交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指し、JR長崎駅の西側に整備される交流拠点施設。

この交流拠点施設のうち、コンベンションホールなどからなるMICE施設の起工式を、8月2日に行いました。市長は「さまざまな会議の誘致や受け入れには産学官の連携が不可欠。引き続き一体となって取り組んでいきたい」と決意を述べました。

■問い合わせ 交流拠点施設整備室(☎829-1267)

## NPT核軍縮委員会議長が 長崎を訪問しました



被爆地長崎・広島を初めて訪れました

来年の核不拡散条約(NPT)再検討会議で、核軍縮に関する委員会の議長を務めるマレーシアのサイエド国連大使が、7月11日に長崎市を訪問しました。サイエド氏は爆心地公園で献花した後、原爆資料館の視察や被爆体験講話の聴講を通して、被爆の実相に触れました。

今回の訪問によって、「核軍縮、核廃絶に取り組む決意がさらに深まった」と語りました。

■問い合わせ 平和推進課(☎844-9923)

## 婦人防火クラブが 内閣総理大臣表彰を受賞



2団体の46年にわたる活動が評価されました

地域住民などへの火災予防に対する啓発や消火器の取り扱い訓練などを通して、地域の防火防災活動に取り組んでいる婦人防火クラブ。

安全功労者内閣総理大臣表彰(団体)を受賞した愛宕地区婦人防火クラブと安全功労者総務大臣表彰(団体)を受賞した星取町婦人防火クラブの2団体が、7月17日に市長を表敬訪問し、受賞の報告やこれまでの活動を報告しました。

■問い合わせ 予防課(☎822-0425)

## 長崎大水害の記憶を 次の世代に引き継ぐ



市内21カ所で展示を行いました

1982年7月23日に発生し、県内で多くの犠牲者を出した長崎大水害。災害の記憶を継承するため、7月に市役所や地域センターなどで、当時の惨状を伝える写真パネルの展示を行いました。

市立図書館では、被害が大きかった伊良林地区の写真や災害時に発表される警戒レベルを紹介したパネルなどを展示。来館した多くのかたが足を止め、災害への備えの大切さを実感していました。

■問い合わせ 防災危機管理室(☎822-0480)